

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 国際ビジネス学科	教授	夏目 啓二
最終学歴	学 位	専門分野
立命館大学大学院経営学研究科博士課程修了	博士	経営学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

国際ビジネスの教育を建学の精神に基づき実施すること。

(計画)

国際ビジネスと国際経営の教育を「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」をコンセプトに実施すること。

○担当科目（前期・後期）

(前期) 経営戦略論、国際経営論、地域ビジネス特講VI、アジア経済論

(後期) グローバルビジネス論、ケースメソッド、国際経営論入門、卒業研究指導 I

○教育方法の実践

授業は、講義形式で行ったが、パワーポイントと配布資料を利用した。また、日本とアメリカの国際経営に関する視聴覚ビデオのケースを紹介し、現状と課題を理解させた。理解度を確認するために授業中にディスカッション・タイムやレポート提出を導入した。半期の講義期間中に7回のレポート提出を行、ディスカッションを行った。

○作成した教科書・教材

夏目啓二著 (2014) 『21 世紀の ICT 多国籍企業』同文館と配布資料。

夏目啓二編著 (2017) 『21 世紀 ICT 企業の経営戦略』文真堂と資料配布。

○自己評価

2017 年度では、半期の講義期間中に3回のレポート提出を行ったが、学生の理解度はあまり深まらなかったように思われた。この改善のために、2018 年度では、毎回の授業毎にレポートを提出させること、翌週に、そのレポートを基にディスカッション・タイムを設定することが、学生の理解度の深化に有効と思われた。したがって、2018 年度では、半期の講義期間に7回のレポート提出とディスカッション・タイムが有効に機能したように思われる。ただし、さらに学生の発言機会を増やすことにより、ディスカッション・タイムの改善をはかり、ひとり一人の学生の理解を深めることが、2019 年度の課題である。

II 研究活動

○研究課題

「21 世紀 ICT 企業の経営戦略」

○目標・計画

(目標)

単著論文「中国の一带一路と越境 EC」、単著論文「プラットフォーム資本主義の光と影」の執筆。

(計画)

2018 年 7 月 14 日 『京都大学経済研究所プロジェクト』報告予定。

2018年9月12日『アジア経営学会第25回全国大会』報告予定。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・夏目啓二（2018）「インフラ整備と越境 EC 一帯一路の光と影」『経済』No. 275, 8月号。
- ・夏目啓二編著(2017)『21世紀 ICT 企業の経営戦略』文真堂
- ・夏目啓二・陸云江著(2017)『現代中国の ICT 多国籍企業』文真堂
- ・夏目啓二著（2014）『21世紀の ICT 多国籍企業』同文館

（学術論文）

- ・夏目啓二(2017)「オフショア・アウトソーシングへーIT 多国籍企業の史的展開」『現代アメリカ経済史ー「問題大国」の出現』有斐閣。【査読有】
- ・夏目啓二（2017）「21世紀 ICT 企業の経営戦略」夏目啓二編『21世紀 ICT 企業の経営戦略』文真堂, 1-12 頁
- ・夏目啓二（2017）「21世紀アメリカ多国籍企業の新展開」夏目啓二編『21世紀 ICT 企業の経営戦略』文真堂, 15-37 頁
- ・夏目啓二(2016)「中国の国有多国籍企業：世界の大企業体制のなかでみる」『経済』(244), 115-125 頁
- ・夏目啓二（2016）「グローバリゼーションと世界の大企業体制の変貌」日本経営学会編『経営学論集』86(0), 96-104 頁
- ・夏目啓二・陸雲江（2015）「中国通信機器企業の国際競争力ファクターを以て中心として」『龍谷大学経営学論集』第54巻第3号・4号、3月、19-35 頁【査読有】
- ・夏目啓二(2014)「書評 イアン・ブレマー著、有賀裕子訳（2011）『自由市場の終焉：国家資本主義とどう闘うか』」『龍谷大学経営学論集』第53巻第2号、1月、95-100 頁
- ・夏目啓二(2013)「書評 吉岡英美著『韓国の工業化と半導体産業』」経営史学会編『経営史学』48(1), 67-69 頁
- ・夏目啓二(2012)「世界経済危機後の多国籍企業」『龍谷大学経営学論集』第52巻第1号、6月、44-61 頁【査読有】
- ・夏目啓二(2012)「調査報告：富士通の IT サービス事業における人材育成」『龍谷大学経営学論集』第51巻第3号、2月【査読有】
- ・夏目啓二(2011)「リーマン・ショック後のアジア ICT 企業」『アジア経営研究』第17号、23-36 頁【査読有】
- ・夏目啓二(2011)「アメリカの産業競争力をどう見るか」『経済』No. 190, 7月号、82-88 頁。
- ・夏目啓二・上田智久・陸雲江(2011)「調査報告：NEC の IT サービス事業における人材育成」『龍谷大学経営学論集』第51巻第1号、8月、30 頁～39 頁
- ・夏目啓二(2011)「巻頭言：市場の危機から政府の危機へ」『比較経済体制研究 2010』第17号、1-3 頁
- ・夏目啓二・上田智久・陸雲江(2011)「調査報告：シスコシステムズ合同会社における人材育成」『龍谷大学経営学論集』第50巻第4号、6月、137 頁～146 頁

（学会発表）

- ・夏目啓二(2018)「中国の一帯一路と越境 EC の光と影」京都大学経済研究所・共同研究拠点。
- ・夏目啓二(2018)「プラットフォーム・エコノミーー 変貌する世界経済の主役：社会経済的視点から」経済理論学会東海部会。
- ・夏目啓二（2016）「グローバリゼーションと世界の大企業体制の変貌」日本経営学会第91回全国

大会統一論題報告（熊本大学）9月

- ・夏目啓二(2014)「サービス多国籍企業ーグローバル ICT 産業を中心としてー」多国籍企業学会第7回全国大会統一論題報告(九州大学)、7月
- ・夏目啓二(2013)「国有多国籍企業と国家資本主義」多国籍企業学会第6回全国大会自由論題報告(阪南大学)、7月
- ・夏目啓二・陸運江(2013)「中国 ICT 企業の競争力ーパソコン産業を中心としてー」アジア経営学会第20回全国大会自由論題報告(京都大学)、9月
- ・夏目啓二(2012)「世界経済危機後の多国籍企業ーWorld Investment Report 2011 から読むー」多国籍企業学会西部例会(京都私学会館):3月3日

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- ・日本学術振興会科学研究費補助金による研究成果
 - (1) 2007年度～2009年度:日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B):研究課題「IT人材の国際移動がアジアのIT産業発展に及ぼす影響の地域比較」(課題番号:19330091):研究成果:夏目啓二編著(2010)『アジアICT企業の競争力』ミネルヴァ書房
 - (2) 2010年度～2012年度:日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C):研究課題「日米ICT多国籍企業とアジアICT企業との研究開発力に関する国際比較」:研究成果:夏目啓二(2014)『21世紀のICT多国籍企業』同文館出版
 - (3) 2016年度:日本学術振興会学術図書補助金:研究成果:夏目啓二・陸云江(2017)『現代中国のICT多国籍企業』文眞堂
- ・龍谷大学社会科学研究所指定研究・共同研究助成金による研究成果
 - (1) 2006年度～2008年度:龍谷大学社会科学研究所・指定研究助成金:「IT人材の国際移動が中国のIT産業発展に及ぼす影響の日米比較」:研究成果:夏目啓二編著(2010)『アジアICT企業の競争力』ミネルヴァ書房
 - (2) 2013年度～2015年度:龍谷大学社会科学研究所・共同研究助成金:「グローバルなICT産業における経営戦略の国際比較」:研究成果:夏目啓二編著(2017)『21世紀ICT企業の経営戦略』文眞堂

○所属学会

日本経営学会、アメリカ経済史学会、アジア経営学会、多国籍企業学会、日本比較経営学会、労務理論学会

○自己評価

2018年度は、1本の学術論文の2本の学会報告を研究成果とすることができた。また、社会貢献活動では、アジア経営学会常任理事とビジネス系大学教育会議理事の職責をはたすことができた。2019年度においては、3本の学術論文、3本の学会報告、1件の講演活動、3件の社会貢献活動に継続して取り組みたい。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

契約により免除

(計画)

○学内委員等

○自己評価

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

日本比較経営学会第43回全国大会に出席。

アジア経営学会第25回全国大会に出席。

京都大学経済研究所・共同研究プロジェクトで報告。

ビジネス系大学教育会議で報告。

(計画)

2018年9月～2021年9月：アジア経営学会常任理事（機関誌担当）の継続。

2015年3月～2021年3月：京都大学経済研究所評議員の継続。

2004年9月～2020年9月：ビジネス系大学教育会議常任理事・理事の継続。

○学会活動等

2010年9月～2013年9月：日本経営学会常任理事（国際交流担当）

2013年9月～2016年9月：日本経営学会常任理事（国際交流担当）

2015年9月～2018年9月：アジア経営学会常任理事（部会・プログラム担当）

2018年9月～2021年9月：アジア経営学会常任理事（機関誌担当）

2011年6月～2014年6月：日本比較経営学会理事・理事長

2006年9月～2013年9月：国際経済学会理事

2016年3月～2021年3月：京都大学経済研究所評議員。

○地域連携・社会貢献等

2004年9月～2020年9月：ビジネス系大学教育会議常任理事・理事

○自己評価

日本の学術学会、とくにアジア経営学会の発展のために引き続き貢献したい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

・ On 1, September, 1998-31, August 1999, Visiting scholar of University of California at Davis.

・ On 1-2, September 2014, Program Chair of International Conference of IFSAM (International Federation for Scholarly Association of Management) at Meiji University.

VI 総括

以上